

JAMの主張

田中ひさや必勝へ ベクトル合わせ、一枚岩で

JAM第19回定期大会あいさつ（抜粋） JAM会長 宮本 礼一

機関紙JAM 2017年8月25日発行 第223号

2017 春闘

人材不足に対応すべく「人への投資」が必要であることを訴え、二〇一四年から四年連続のベア要求による「賃金の底上げ・格差是正」に取り組みました。

また、新たな共闘体制の試みとして、地方リーディング組合を設定し、地場中小労組の交渉を促進・支援するための地方共闘体制を構築しました。

物価上昇率がほぼゼロの状況下ではあったものの、本部登録組合の力強い牽引と、多くの中小労組での粘り強い交渉により、賃金改善額は昨年実績には及びませんでした。四年連続で賃金改善の流れをつくることができました。

特に三百人未満組合での妥結額が、三百人以上の組合の妥結額を二年連続で上回ることであり、企業規模間による賃金格差の是正に寄与する結果となりました。

他方では、複数年連続で賃金改善を実施している中小と、賃金改善ができていない中小との賃金格差が広がっており、格差是正の取り組みが全体への広がりには課題を残しています。

JAMは、個別賃金重視による賃金要求の取り組みを重視していますが、今年は特に三〇歳・三五歳ポイントの賃金水準を開示して要求した組合数が五百単組以上に拡大し、この結果、地場中小においても賃金改善の流れを定着させる取り組みにもつながっています。この取り組みをさらに強化していかなければなりません。

二〇一八春季生活闘争では「大手追従・大手準拠からの脱却」を継続させ、資本関係や取引関係による制約を受けず、中小労使が主体的に交渉できる環境を整備していく必要があります。

第25回参議院選挙

私たちは「藤川しんいち」候補を擁立して闘った第二十四回参議院比例選挙で、残念ながら「津田やたろう」議員の議席を繋ぐことができませんでした。

この選挙戦では「私たちはどのような政策を社会や組合員に訴え、どのようにして雇用安定を基本とした“ものづくり産業”の発展をめざすのか」ということや「地方JAMや地協組織が、単組や組合員にとって身近な存在として機能しているのか」など、多くの課題が明らかにもなりました。

昨年八月に開催した第十八回定期大会では、多くの代議員より「次の選挙を闘う前に、まずは組織強化が必要ではないか」というご意見や「敗れはしたが次の選挙では必ず勝つ」という励ましのご意見などをいただきました。

そして、昨年の定期大会以降、中央執行委員会や中央委員会で、選挙総括だけでなく様々な面から検証してきた結果「田中ひさや」副書記長をJAMの組織内候補として擁立し、第二十五回参議院比例選挙を闘うことを決定しました。

参院選を闘うにあたり、政治への関心を高める活動や、地協組織の強化など、解決しなければならない課題が山積していますが、まずは仲間の皆さんと先に述べたような議論を交わし、対話を進めながら、全組合員のベクトルを合わせ、一枚岩となって「田中ひさや」候補の当選にむけて邁進したいと思います。

「田中ひさや」さんは、長年地方JAMでオルガナイザーや書記長として、中小ものづくり現場で中小組合を指導し、本部に異動してからは、組合運動の基本である組織拡大やJAM共済を通じて培ってきた豊富な経験の持ち主です。

この経験を国会の場で活かすことができれば、労働者やサプライチェーン全体を含む“ものづくり産業”のために、汗を流すことができる組織内国会議員になると確信しています。

改めて、「田中ひさや」候補に対する、仲間の皆様方の暖かいご支援をお願い申し上げます。